

# 高山の文化を高めた人々

## 45

### 日本画(水墨画)の育成に尽力された 花本 喜太郎(喜朋)

山 腰 曠

戦後は農業の傍ら精米と米の販売店を開けました。

高山に生まれ、加藤英舟に師事した四条派の画家である  
榎 文峰あらきぶんぽうが昭和二十六年に三福寺町に庵を構えました。

花本先生は、昭和三十年代にその榎文峰に師事し、本格的に日本画を学びました。自宅にアトリエを作り、大広間は市民会館が建設されるまで、絵画の会や地域の人々に広く開放されていました。

また、先生はたびたび寺院に出向き、立華の技術を学ばれました。華道では池坊の「立華皆伝」免許を取得され、高山別院をはじめ各寺院に立華活け込みの奉仕をされました。それを生かした立華の描写を得意とされ、多くの作品が残されています。昭和五十八年には、市民文化会館で仏花をテーマに個展を開催され、作品の多くは市内をはじめ近隣町村の寺院に寄贈されています。

また、高山市美術展の育成に尽力され、日本画部門運営委員や理事を歴任し、後進を指導されました。



花本さん（左端）と筆者（右端）

昭和四十八年には、日本画を志す岩島周一先生や新名隆太郎先生とともに「秀芸会」を立ち上げ、同年に展覧会が開かれています。

岐阜県美術展では、昭和四十八年から五十三年まで連続で入選・入賞され、昭和五十五年には「相伝」で第二回中日展に入選されました。

高山出身の版画家で日展審査員の守洞春先生とも親交があり、守先生の推挙を得て、昭和五十五年から飛騨地区代表の委員として岐阜県水墨画協会の設立に奔走されました。

以来、協会理事、副理事長、飛騨支部長などの要職を歴任し、飛騨をはじめ岐阜県の水

墨画の後継者育成や発展に尽力されました。

また、各市町村の公民館での水墨画教室や文化センターなどの講師も積極的に務め、多い時は百人以上に指導されていました。

以前は、各種展覧会は岐阜市で開催されており、作品の搬出や見学などに不便を感じていた花本先生は、昭和六十年に「飛騨水墨画協会」を設立され、県飛騨支部展を開催し、今年で二十五回目を迎えます。現在では出展数も二百点を超えています。その半数以上が花本先生の指導を受けた生徒の作品です。

花本先生は、誰からも親しまれるお人柄で、技術の研究や後進の指導を積極的に行われ、支部長として同協会の発展のため、十五年に亘り尽力された功績はたいへん大きなものがあります。平成六年から平成十八年一月に亡くなるまで、岐阜県水墨画協会名誉会員として活躍されるなど、最後まで水墨画を愛し、それを通して広く社会に貢献された方でした。



愛用の皮カバンをいつも肩に（上高地にて）

花本喜太郎先生は、大正八年二月二十三日に、旧大野郡大名田町に生まれ、大名田町第一小学校高等科、岐阜県警察練習所を卒業されました。その後、日華事変に徴兵されて中国山西省方面に従軍、終